

春になり気温も上がって、害虫なども活動する時期となりました。
今月号では、研究農場でのトマトハウス及び露地圃場の現状をお伝えします

第4圃場 トマトハウス(品種比較)

気温が高くなるにつれて、コナジラミがハウス内で多くみられるようになりしました。気門封鎖剤を中心に防除を行っています。
化学農薬としては、ベネビアOD（シアントラニリプロール水和剤）、ウララDF（フロニカミド顆粒水和剤）の散布を行っています。
気温も高くなってきていますので、薬害に気を付けて防除を行います。

今後に向けて：灰色カビ病やうどんこ病の発生に気を付けて管理します。
発生時はカリグリーン（炭酸水素カリウム水和剤）の使用を予定しています。
栽培終了は6月末です。

第4圃場 トマトハウス(天敵放飼バコトツプ放飼試験)

今年度は、コナジラミの姿もほとんどなく栽培を続けられています。
年が明けてからは、殺菌剤・殺虫剤の散布をほとんど行っていません。

今後に向けて：コナジラミ以外の害虫、病気の発生などに注意しながら管理します。
栽培終了は7月予定です。

第2圃場 春ブロッコリー、初夏キャベツ

アブラムシやチョウ目害虫、黒すす病の発生が見られています。
殺虫剤：プレオフロアブル（ピリダリル水和剤）、
アルバリン顆粒水溶剤（ジノテフラン水和剤）
殺菌剤：ダコニール1000（TPN水和剤）、
パレード20フロアブル（ピラジフルミド水和剤）を使用しています。

今後に向けて：チョウ目害虫、べと病や細菌系の病気に注意して管理します。

また、日射量が増える季節となり光合成促進を目的に、葉面散布剤として鉄力あくあF14とペンタキープHyper5000を使用しています！！

※農薬使用の際には、農薬登録情報を確認の上、不明点などにつきましては、各種指導機関へ相談のもと、使用をお願いいたします。